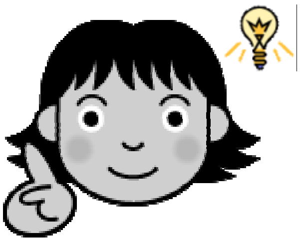
〈授業改善のポイント４〉

思考を促し、見取る教師の働きかけ

○　子どもが自分の考えをもつときって？



（1）課題の意味や発問の意図が分かったとき

（2）考える視点や方法が分かっているとき

（3）考えるための手がかりがあるとき

（4）考える時間があるとき（間（ま））

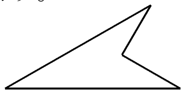
○　思考を促す発問って？

子どもの考えを揺さぶる
　これまでの既習内容や経験に反することを投げかける。
「～だったよね。でも、～なのはどうしてだろう。」

考えを照らし合わせる
　子ども相互の考えを予想したり、再生したりさせる。
「Aさんの言葉の続きを言えるかな。」
「Bさんの考えていること分かりますか。」

ポイントは教師の切り口

葛藤を生む
　これまでの学習から、どちらか判断に迷うことを問う。
「これは、三角形と四角形のどっちですか。」



矛盾・対立を生む
　考えの共通点や相違点を整理したり、根拠や微妙な違いを問い返したりする。
「みんなは同じって言ったけど、～というところが違うんじゃないかな。」

分類や比較をさせる
　調べたことや友達の考え等の間にある相違点や共通点を見つけ出させる。
「Aさんの考えは、黒板のどこに書けばいいかな。」

関連付けさせる
　分かった事柄の間に、どのような関係があるのかを考えさせる。
「分かったことをつなげると、どんなことが言えるのかな。」

多面的に見させる
　新たな視点でアプローチする方法を示し、子どもによる解決を促す。
「もし、～だったらどうなるだろうか。」

○　どうやって見取るの？

〈机間指導から見取る〉

- 学習活動の全体像を**「見る」**
- 学習課題への取組の様子を**「観る」**
- 座席表活用
- 学習の進め方や理解の実態を**「診る」**
- 学びの様子を把握して個に応じて**「看る」**

次の展開構想
・誰の意見から
・どの考えを絡ませ
・着地点はどこ

思考の深まり

個をのばす意識

個々の見取りとそれに基づく支援

こうした発言を**見取り、価値付けて、広める。**
「～という言葉を使ったから、わかりやすかったね。」

〈子どもの発言から見取る〉

子どもの言葉から見える思考力

・「○○が～したのは、～だからなんだ」	理由付け
・「○○と□□を比べると、～が違う」	比較、相違
・「○○と△△には、～という法則性がある」	規則性
・「～ということから～ということが言える」	類推
など	

目的をもった机間指導へ

◇　考えを把握し、学び合いに生かす机間指導を行う。

〔ステップ１〕
- 課題を理解しているか
- 方法は理解しているか
- 意欲はあるか
- 取り組んでいるか

〔ステップ２〕
- どのような考えをもっているか
  - 想定内の考え
  - 想定外の考え（○△）
- どのような考えにまとめられるか

〔ステップ３〕
- どの考えを取り上げるか
- どのような順番で取り上げるか
- 何に気付かせ／何を問い返すか
- どれを比較検討させるか　等

・座席表の活用　・事前の想定　・記録の記号化　・授業構想

〔目　的〕
①　指示の確認　：指示が行き届いているかを確認する。
②　分　　　類：誰がどんなことを書いているか知る。　→　課題解決に向けた構想
③　指名者の選定：指名の順番を構想する。　→　意図的指名　↓
④　授業の再検討：授業の予定を変更する必要があるかどうかの検討を行う。
⑤　助言・指導　：この学習が成立するよう指導・助言・援助を行う。
※　学習形態や学習過程に応じた小集団による学びの状況把握や助言・指導。

※　常に①～⑤全てを行うのではなく、目的をもって机間指導を行う。
※　時間をかけすぎないよう時間を決めて机間指導を計画的に行う。
「分からない」「できない」も受け止め、次の段階で解決できるよう構想し、指導を行う。

○　事前に子どもの思考や活動を想定し、観点を明確にして効率よく行う。（観点の精選、記号化、関係）
○　意図をもって巡視し、指導の順番を計画する。（日常的な実態把握）
○　評定的な「見取り」にとどまらず、指導に生かす。
○　簡潔な記録、記録の累積を行う。（座席表等の活用）

◇　様々な機会で一人一人を把握し、個に応じた支援を行う。

発言　机間指導　ノート　活動　テスト　挙手

個々の見取りから支援へ

学習速度が速い子どもへの支援
○　見直し：解き方や解答を再確認
○　別の方法の発見：多面的な見方や考え方の育成
○　発展問題への挑戦：
　　　意欲の醸成と思考力・応用力の育成
○　教え合いの支援者：理解の深化

学習速度が遅い子どもへの支援
○　一人での追求：確実な理解
　＊正答率が高く慎重な子どもに適している
○　教え合いの被支援者：他の子どもからの学び
　＊「教える側」と「教えられる側」を固定化させない配慮
○　個別の支援：自らの気付き
　＊口頭によるヒント等を与える

作業速度に応じた支援
○　早く終了した場合の指示や約束事
　例　「教科書や資料集を読む」
　　　「大切なところに線を引く」
　＊子どもが自分で判断しながら学習を進めることができるように

興味・関心や得意分野などを生かした支援
○　子どものよさを見つけ、全体に広げる
　例　「○○さんは、みんなが気付かなかったことをまとめているので、紹介してくれるかな」
　＊一人一人に有用感をもたせられるように